

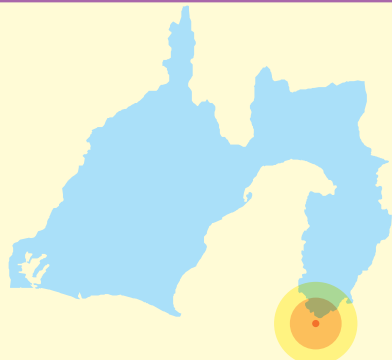
◎伊豆FNY活動組織

代表 石川 憲一

〒415-0324 静岡県賀茂郡南伊豆町上小野 469 tel 090-5858-5486

主な構成員（人数）：漁業者 63 名、漁業者※以外 54 名 計 117 名

関係市町：南伊豆町 ※伊豆漁協南伊豆支所・NPO法人伊豆未来塾・
ダイビングインストラクター・シーカヤックインストラクター



●活動地域

FNY活動組織は伊豆半島の最南端南伊豆町を拠点として活動を行っています。南伊豆町の海岸線は5.7kmと大変長く全ての地域での活動は難しいので、特にサンゴの生息が認められる地域や浮遊ゴミの多い地域を選んで活動を行っています。

●協定面積 10ha

対象種の紹介

伊豆半島南側は変化に富んだ複雑な地形をなして、黒潮の通り道になっていることから、日本北限のサンゴ20数種類が生息しています。種類によっては大きな群落をなしている事を確認しています。



■キクメイシ



■ニホンアワサンゴ

対象種の分布・生育状況

サンゴの保全活動を行っている中木地区では多種・多数のサンゴが確認されています。サンゴの生育状況は良好ですが、近年台風の大型化や高潮によっての被害が心配されています。新たにサンゴが確認された妻良地区も今年度よりサンゴの保全活動を行っています。

保全活動の必要性

特に、サンゴが多く確認出来る中木地域のヒリゾ浜周辺では、近年秘境の浜として大勢の観光客が訪れています。ヒリゾ浜に渡る観光客にサンゴの保護に関するパンフレットを配って、サンゴの保護の重要性をうたっています。

これまでの活動成果

サンゴの生息地を隠すのではなく、場所を明らかにした上で、保護の必要性や保護の方法を説明することで来訪者のサンゴの保護に対する理解度が上がってきました。また、海洋汚染等の原因となる漂流・漂着物、堆積物の処理を継続することで、海環境保全の意識が高まってきました。



今後の活動指針

●保全活動の目標

南伊豆地域の海岸や海中から人為的に捨てられたゴミが無くなるように海の清掃活動を続けていきます。また、サンゴの生息地を定期的に清掃しサンゴの貴重さを地域や来訪者にアピールしサンゴの保護の方法や必要性の理解を深めていきます。

最近回収量が増えているペットボトルなどやマイクロプラスチックなどのゴミの量の把握、どこから来たのかなどの解析にも力を入れていきたいと思えます。

